

## IFS-GCORE 海外派遣プログラム 体験記

氏名	谷 知輝
所属/学年	伝熱制御研究分野 小宮研究室 / 工学研究科 修士1年
指導教員	小宮敦樹
研究課題	周期温度境界条件の違いによる温度場浸透の解析的評価
派遣期間	2023/12/8 – 2024/02/16
派遣機関	CETHIL, INSA Lyon
受入教員	Pr. Shihe Xin, Pr. Jacques Jay

### 体験記：

2023年12月8日から2024年2月16日までの期間、フランスはリヨンにあるINSAのCETHILにインターンシップ生として滞在してきました。今回のインターンシップの目的は、「周期温度境界条件の違いが生体内熱浸透深さに及ぼす影響」について数値計算により評価することでした。研修予定では、数値計算のプログラムを1から構築するスキルを身に着けること、そのスキルを用いて今回の研修課題を達成することでした。研修前では、数値計算のプログラムを1から構築するスキルはほぼゼロの状態でしたが、研修後はそのスキルを身に着けることができました。しかし、そのスキルを身に着けることに対してかなり時間を要し、研修課題の数値計算プログラムを構築して結果を出すところまでは達成できませんでした。この研修課題は私自身の研究分野であるため、今後は得たスキルを用いて日本で数値計算プログラムを構築し、結果を出していく予定です。

今回の研修を通して、研究内容に関することに加えて、2点大きな学びがありました。1点目は計画力です。研究を進めていく上で計画力は重要なスキルですが、私はそのスキルが不足していると感じました。フランス研修中は研究を進めていくだけでなく、東北大学の講義に対する準備や進学に関する書類作成なども同時並行で行っておりました。その多くのタスクの中で段取りを考え計画通りに進めることができず、私のスケジュール管理・調整の力不足を痛感しました。今回の経験を通し、私は私が思っている以上に何事（スキル習得や書類準備など）にもかなり時間を要する自分であることを認識しました。今後は、私が思っている以上に準備などに時間がかかることを心に留めた上でスケジュール管理を行いたいと思いました。

2点目は、英語でコミュニケーションを取る楽しさです。研修前は、日本の同研究室の留学生メンバーに英語で話すことさえを躊躇する程、英語でコミュニケーションを取ることが苦手でした。しかし、研修中あらゆる国籍の人とのコミュニケーションを通じて、日本にはない価値観や文化を知ることがとても楽しいということに気づきました。英語がもっと上達すれば、外国との距離がより近くなり、より人生の選択肢が広がると感じました。そのため、今は研究室の留学生と積極的に話すようになり、コミュニケーションを楽しむことはもとより、英語を上達させるため少しずつ勉強を始めるようになりました。

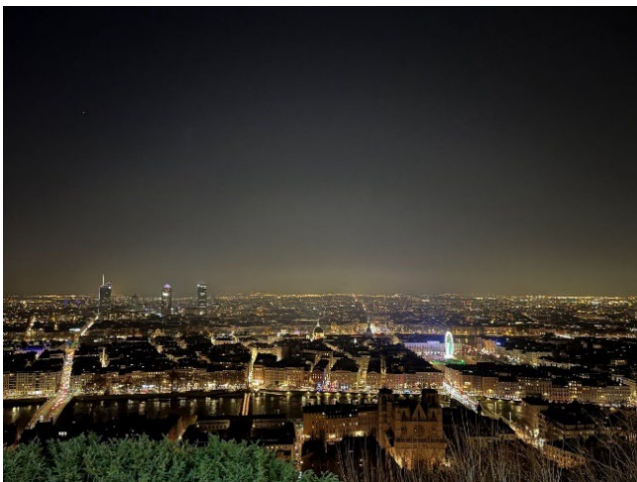
今回のインターンシップを通して、研究における学びに加えて自分に足りないものを認識することができました。そして、何一つ不自由ない生活をさせていただき、大きなトラブルもなく研修を終えることができました。このような貴重な経験をさせていただき、小宮先生、受入教員 Xin 先生、同研究室メンバー Marianne さん、GCORE 事務室の皆さん、JASSO さん、関わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。



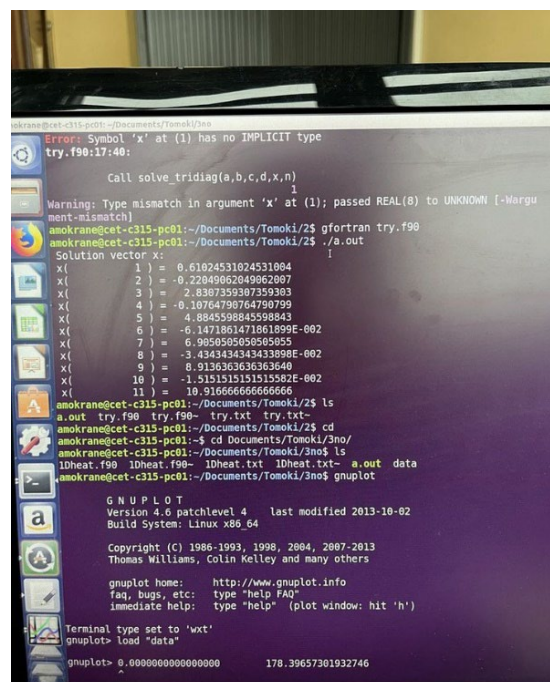
Marianne さん (右上) と妹さん (右下) と高木君 (左上)



CETHIL のミニクリスマスパーティ



Lyon の夜景



プログラミング